

長期戦略:テーマ 「多様性と学力の担保」

提出日 2019年 8月 28日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	北村高大接続センター長 (高大接続センター)	実施計画の 担当部署	高大接続センター
-----------------------	---------------------------	---------------	----------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(9)-③ 高大連携の充実	2019年度	2021年度	必要⇒【選択型】(学部・研究科が任意で取組みを選択)	不要
<p>内容</p> <p>高等部・中学部や千里国際高等部・中等部は建学の精神を共有し、特長ある一貫教育を実践し、本学の教育の根幹をなしている。それと同時に、安定した大学入学定員確保の根幹でもある。また、同一法人のそれら学校と同様に、継続校である啓明学院、提携校である帝塚山学院、そして現在12にのぼる協定校も本学の教育理念に共鳴し、グローバル教育・キリスト教主義教育を柱として本学を支え、同時に大学入学定員を安定的に支える存在として重要である。これら16高校との更なる高大連携事業の充実を図り、連携強化をするとともに、これら連携校の拡大を図ることで大学入学定員の一層の安定化を図る。</p> <p>1. 協定校等の拡大 協定校は入試委員会が管理・監督を行う。協定校は毎年出身生の成績を中心に更新の検証を行っており、成績報告等大学との関係は概ね良好である。上記にも記しているとおり、本学の安定的学生獲得に貢献していることから、今後も協定校を拡大していく。ただし、現在協定関係にある高等学校との関係から同一地域などの高等学校との協定締結は慎重に行う。</p> <p>2. 高大連携事業の更なる継続・推進（全学部対象として） 現在、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などとは学部選択説明会など高大連携事業は行っているが、提携校や協定校はまだ不十分である。そこで、従来の説明会を単純に増やすのではなく、大学での学びそのものや、高校と大学の学びの関連性などを伝えることにより、多様で高度な学問への関心を高めることに重きを置いた施策も検討し、さまざまな高大連携施策を再構築して体系化する。これらを高校初年次から実施することによって学びへの動機付けを行い多様な学力の向上を図る。</p> <p>3. 理工学部の高大連携による推薦協定等推進 今後、改組が予定されている理工学部であるが、現状での偏差値等評価は低く、学生募集も非常に厳しい状況である。AIなどICT技術をはじめ、今後も理工系学問の必要性は高まりこそすれ、下がることはありえない。また、いわゆる進学校・トップ校の高等学校においては、半数から9割が理工系である状況を考えると、本学のブランド力維持・向上のためにも、理工系学部への安定した入学者数の確保は極めて重要である。そのため、一般選抜入試での学生募集の努力はもちろんであるが、推薦協定校等の充実・拡大による方法も改めて検討の必要がある。そこで、本学の院内校・継続校・協定校である、高等部・千里国際高等部・啓明学院・帝塚山学院などとの密な高大連携プログラム(インターンなども含む)もさらに拡充し、安定した理工系進学者の確保を行う。さらに、協定校などとの高大連携プログラムもさらに拡充し、協定校推薦による入学者数の増加も図る。</p>				

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	協定校等の拡大 重点地域を定めた 志向的な広報・広告効果の検証学 力3要素を評価する入試の導入	拡大数
指標2	高大連携事業の数	院内・継続校・提携校・協定校を合わせた連携事業(※)の実施数 連携事業とは、単純な説明会だけでなく、高校と大学の学びの関連性を伝える、多様で高度な学問への関心 を高める施策。
指標3	院内・継続校・提携校・協定校から の本学理工学部への進学者数	院内・継続校・提携校・協定校(現在 16 高校)から本学理工学部への入学者の合計数

目標1<指標1>連携校、協定校の拡大

	2019年度	2020年度	2021年度	4年目以降
目標	協定校1校	協定校1校	協定校1校	
実績				

目標2<指標2>高大連携事業の更なる継続・推進

	2019年度	2020年度	2021年度	4年目以降
目標	協定校との学部説明会等実施	協定校との学部説明会等実施	協定校との学部説明会等実施	
実績				

目標3<指標3>理工学部の高大連携による推薦協定等推進

	2019年度	2020年度	2021年度	4年目以降
目標	高等部・千里国際・啓明学院・帝塚山学院と理工学部との懇談等の実施 連携校・推薦協定校等対象の高大連携プログラムの検討	院内校・連携校・協定校(現在16高校)から本学理工学部への入学者	院内校・連携校・協定校(現在16高校)から本学理工学部への入学者	院内校・連携校・協定校(現在16高校)から本学理工学部への入学者
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
連携校、協定校の拡大	策定段階	協定校増加を視野に情報収集	協定校として1校追加	協定校として1校追加		
	2020年3月末段階	北陸学院が協定校に加わった。	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2020年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高大連携事業の更なる継続・推進	策定段階	これまでの全体会・出身生との懇談会の他に、「進路・入学担当者会議」を設置。 また、大学説明・模擬講義の実施の充実を図る。	「進路・入学担当者会議」において、高校の進路指導担当者と高大接続センター（あるいは入学学部の担当者）が課題や生徒の教育内容・方法について意見交換。	連携事業の実施		
	2020年3月末段階	—	—	—		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階					
	2020年3月末段階					

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
理工学部の高大連携 による推薦協定等推 進	策定段階	高等部・千里国際・啓 明学院・帝塚山学院と 理工学部との懇談等の 実施 推薦協定校等対象の 高大連携プログラムの 検討	協定校高大連携プログ ラムの提案	協定校高大連携プログ ラムの実施		
	2020 年 3 月 末段階	—	—	—		
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2020 年 3 月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】				
非公開				
経費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度	4年目以降
非公開				
人員・人件費 単位:万円	2019年度 承認	2020年度 承認	2021年度	4年目以降
非公開				

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	
2020 年度	
2021 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<p>新たな協定校について模索していく。 KSC 再編に伴い、院内・継続・提携・協定校からの KSC に設置されている学部への進学者数を増加させていく。</p>
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
() 年度	